市町村子ども発達支援センターを利用している家族の生活とケア

ー新型コロナウイルス感染症による影響と夫妻の働き方に着目してー

○北翔大学短期大学部　　保田　真希（008291）

キーワード：ケア・二次的依存・追加的なケア

１．研 究 目 的

育児や介護、介助等の「ケア」は人が生きていく上で不可避なものである。女性はケア役割の主な担い手になることが多い。ケアを行うことは、担い手自身も他者や社会保障給付に依存した状態に置かれる(「二次的依存」)。「二次的依存」は、労働市場や家族内においても不利な立場に置かれやすく、DV や貧困のリスクになることが指摘されてきた（Fineman2004；Kittay 1991=2010)。しかし、どれほど依存をしているのかという依存の程度や、貧困の状態に置かれるリスクの程度には差がある。

本報告の目的は、①X 県で市町村子ども発達支援センターを利用している家族の生活や困難、②新型コロナウイルス感染症によって、仕事やケア、サポート等の生活にどのような影響があったのかについて、アンケート調査の内容を用いて検証していくことである。

２．研究の視点および方法

（1）調査の概要

本調査は X 県内すべての市町村子ども発達支援センター89 ヶ所（政令市管轄の 5 か所を除く）を利用している家族に対して、アンケート調査を実施した。調査方法はアンケートの郵送調査である。各市町村子ども発達支援センター(以下、センター)を通じて、利用している家族に、①調査の趣旨や概要等を記載した依頼文、②アンケート用紙、③回答したアンケート用紙をいれる封筒を配布した。センターに対して、取りまとめたアンケートを入れるための返信用封筒や記入表（利用世帯数、配布数、回収数）を配布した。回収については、センターで、協力を得られた方のアンケートを取りまとめ、記入表と共に大学に返送してもらう形で実施した。その結果、X 県内の市町村子ども発達支援センター89 ヶ所のうち、77 ヶ所から協力が得られた。実際に各センターから利用家族に配布した数は 2530 である。そのうち、1539 名の協力が得られ、回収率は約 6 割である。

本調査は、科学研究費助成事業（若手研究）「地方都市における子育てと DV に関する実証的研究」(研究代表：保田真希、19K13965、2019-2022 年)によるものである。

（2）研究の視点

DV や虐待の問題、貧困問題は、複合的に絡む。DV は被害にあう人(多くの場合が女性)の人権を侵害する重大な問題である。その発生要因の１つに、家族内、特に夫妻間のパワー(権力関係)が不均衡であることが挙げられる。家族内のパワー(権力関係)が平等か否かは、家族員一人一人がどれだけ資源を有しているかによっても規定される。例えば、どれだけ稼いでいるのかという貨幣の量・収入のちがいが夫妻の権力関係を不均衡にする(アーネ・ロマーン 2001)。しかし、ケア役割を中心に担うと、労働市場へのアクセスを制限し、低賃金のパートタイム労働に結びつきやすい。ケアの担い手は稼得の機会が減少し、担い手

自身が依存せざるを得ない(「二次的依存」)。「二次的依存」は、担い手自身の自立性を弱め、DV や貧困のリスクになりうる。家族に包摂されることで生活基盤が安定しているが、担い手の安定は他者に依存する事で実現しており、その意味で脆弱なものである。しかし、「二次的依存」はそれ自体では貧困として顕在化するわけではなく、可視化されにくい(Lister 2004= 2011)。そこで、本研究は夫妻の働き方によって、ケアの配分やサポートの有無、悩み等にどのような特徴があるのかに着目し、検討する。

３．倫理的配慮

本研究は、日本社会福祉学会研究倫理規定を遵守している。また、発表で使用するアンケート調査は北翔大学大学院・北翔大学・北翔大学短期大学部研究倫理審査で承認されたものである。X 県内すべての市町村子ども発達支援センターを利用している家族に対し、各市町村子ども発達支援センターを通じて、依頼文、調査の趣旨や概要、断ってもよいこと、データの取り扱い方法などを記載した資料をアンケート用紙と共に配布した。同意や協力が得られる場合は、無記名でアンケートを回答し、同封している封筒に入れて提出してもらう形で実施した。本研究は協力者の匿名性の保障と個人情報の保護を行っている。

４．研 究 結 果

本研究で明らかになったことは、次のとおりである。第 1 に、正職員・正社員同士のカップルが少ない。女性の多くが結婚や出産を機に、パート・アルバイト、派遣社員等の非正規雇用に従事していた。第 2 に、新型コロナウイルス感染症によって働き方が変化した夫妻はほとんどおらず、収入が減少した家族は全体の約 1 割である。第 3 に、女性が家族内のケアを中心に担っており、新型コロナウイルス感染症の影響で外出自粛や休校になった時も、母親が中心に家で子どもたちを見ていた。

５．考 察

新型コロナウイルス感染症の影響を受けなかった背景に、普段の勤務体制と変わらない職種が多いことが挙げられる。また、女性は夫に付き添って地域移動をすることで労働市場からの撤退や非正規雇用化につながる。これは、「二次的依存」のリスクを高め、女性自身が単独で生活を維持するための経済的資源を有していない。つまり、周りのサポートがあるか否か、地域の条件によっても、「二次的依存」を生み出すことにつながる。

参考文献

①Kittay,Eva Feder.(1991) “Love’s Labor: Essays on Women, Equality, and Dependency, ”Routledge.（＝岡野八代・牟田和恵監訳（2010）『愛の労働あるいは依存とケアの正義論』白澤社）. ②Fineman Martha Albertson (2004) THE AUTONOMYMYTH:A Theory of Dependency,The New Press.（＝穐田信子・速水葉子訳（2009）『ケアの絆―自律神話を超えて―』岩波書店.）③Lister,Ruth（2004）“Poverty”,Polity Press(=松本伊智朗監訳(2011)『貧困とはなにか－概念・言説・ポリティクス』明石書店). ④ユーラン・アーネ、クリスティン・ロマーン（2001）『家族に潜む権力―スウェーデン平等社会の理想と現実』日本・スウェーデン家族比較研究会、友子・ハンソン訳、青木書店.